

！市民のわ

フレッシュさん

このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介します。坂本さんは前回の高城さんの紹介です。



坂本 恵子さん
(22歳・和倉町)

「お客様からの『ありがとう』の一言にやりがいを感じています」と話す坂本さんは、和倉温泉『加賀屋』の料飲課でカラオケルームやホールでの接客サービスなどを担当する。

他人の結婚式を見たときに大きな感動を覚え、「将来自分もこんな仕事に就きたい」と高校卒業後、ブライダル関係の専門学校へ進路を決めた。卒業後はふるさとへ戻り、現在の職場で2年目を迎える。「学生と社会人とは責任が全然違う。働いてお金をもらっているという厳しさをいつも感じています」と社会人としての表情を見せる。

休日には友達と買い物で出かけるのが楽しみで、「仕事も遊びも、健康で楽しくやっていきたい」と充実した毎日を送る。

出身地 北海道留萌市



趣味のパッチワーク披露する赤坂さん



このコーナーでは、県外から市内へ転入された方の声を紹介します。

思えば 遠くへ 来たもんだ



赤坂 美香さん
(48歳・中島町小牧)

紹介者から「こんな人がいるよ」というきっかけから、早速、赤坂さんに取材依頼の電話をした。趣旨を説明した途端、赤坂さんとは初めて会話するはずだが「なんで私なの。やだあー」と昔から知っているかのように愛嬌ある声でOKをもらった。

七尾市に嫁いで27年。人間関係や伝統文化を重んじる習慣に「初めは知り合いもいないから、戸惑ってばかり」と。その心境を救ったのが野球好きのだんなさん。試合があれば赤坂さんを連れて仲間を紹介した。そこから持ち前の愛嬌ある性格でメンバーと接した。「美香」とだんなさんがいる前でも呼び捨てに呼ばれるくらいにすぐ打ち解けた。

現在、高校3年間所属したボランティアサークルで経験したことを活かして西岸公民館で働いている。「人のパワーを感じるこの地域に貢献したい」と『元氣一番の主宰さん』としてこの地域を盛り上げている。活力ある地域にするために、「こんな人が一人は必要」と感じさせる赤坂さんだった。

地域で育てる 「人材の地産地生」を



七尾市長
武元文平

受験シーズン。受験生も家族も悩ましい時期だ。合格する子としない子との決定的な違いは、お母さんの言葉掛けだそうだ。合格した子のお母さんは、「応援しているよ」「あなたの味方よ」と常に『ヤル気を育む言葉』を掛けていた。不合格だった子のお母さんは、学校や先生を非難し、「はじめから無理だと思っていた」「何をやっても続かない」「お父さんとそっくり」などと、子どもの『ヤル気をつみとる言葉』を掛けていたそうだ。どんな子どもにも必ず可能性があり、そのことを信じて子どものヤル気を引き出し、伸ばしてあげたいものだ。

見事に合格しても卒業を迎える時がまた大変。今年は就職内定率が過去最低とか。企業の求める人材と学生が望む企業とのミスマッチが多いそうだ。企業は内向き、安定志向、草食系の人より前向き・積極的に独創力があり、課題に挑戦する実行力のある若者、世界に通用する人材を求めている。企業誘致の話でも、企業の求める人材がいなかったところには企業は来てくれない。地方も同じ。積極的に課題に挑戦し、地域とともに地域社会のことに取り組んでくれる若者が必要だ。

地域の歴史や文化・自然を知り、地域社会の豊かな人間関係をきちんと身につけた人間を育てること。その中で、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとのために働く人材が育つのだ。自分が住む地域を非難したり、悪口を言ったりしては、地域でガンバル七尾人は育たない。都会の企業で働くよりも、地域のために働くことの方が、いかに働きがいがあり、楽しいことなのかを子どもたちに伝えていかなければならない。

地域で生まれた子どもは地域で育て、地域で生かすという「人材の地産地生」を進めるため、地域みんなで「地域でヤル気を育む」言葉を掛け合っていきたいものです。

市長へのメール「前略、市長さん」(<http://www.city.nanao.lg.jp/shicho/>)では、市民のみなさんから市長へのご意見・ご質問などをお待ちしています。

市政への思いやアイデア をお聞かせください!

①まちづくりに関すること、②生活環境に関する事など前向きなアイデアをお聞かせください。(個人・グループどちらでも可。1組30分以内)

●2月22日(火) 15:00～17:00

会場：中島市民センター 2階応接室

※申し込みは1週間前まで(公務により中止になる場合あり)

問・申 市民男女協働課 ☎53-8633



このコーナーでは、市内のクラブ活動やサークル活動などを紹介します。



しょうはちまんぐう 正八幡宮太鼓



市内に多くの太鼓チームがある中で、平均年齢25歳と、ひときわ若いメンバーで活躍を見せる正八幡宮太鼓。

昨年、東京で行われた『第59回全国青年大会 創作芸能の部』で見事優秀賞を受賞した。

日ごろの活動範囲は広範囲にわたり、老人ホームや介護施設、結婚式やイベントなど、「依頼があれば率先して参加します。年間の活動数は約40回。この活動を維持していくために、週2回の練習。大会などが近づけば、週に4回程度に増やします」と話すリーダーの小林さん。

普通、この年代は仕事やプライベートなどで忙しい。しかし、正八幡宮太鼓のメンバーはとても仲がいい。取材中に、「次の日の出演依頼でメンバーが足りない」という話に「仕事を何とかします」と即答で応えるメンバー。この話を聞き、全員が非常に強い絆で仲間意識を持ち、太鼓に打ち込む姿勢を感じた。

今後の目標は、3年後に再度全国青年大会に出場し、最優秀賞を獲ること。正八幡宮太鼓の曲の特徴は花火を表現している。花火のように華やかに大きく舞い上がる今後の活躍を期待したい。